# ふかまちのまど

第一四三号　〇六年　三月一日
発行元　深町町内会連合会
連絡所　☎六三―三八八二

## 深小だより

### 子どもたちの安全を

深小学校長　籔本　幸子

また子どもをめぐって悲惨な事件が起きてしまいました。幼稚園児が友だちの母親に殺されるという、信じがたい事件です。事件の背景には母親の孤立があったとも報じられています。人と人との繋がりの大切さをあらためて思わされます。

深小ＰＴＡでは、一月に町内各種団体長、地域安全推進委員、民生児童委員さんなどにお集まりいただいて「深町子どもを守る会」を立ち上げました。

本紙二月号に高崎町内会連合会長さんも書いてくださっていましたように地域全体で子どもたちを見守っていこうということを申し合わせていただきました。大変ありがたいことだと思っています。今後一層見守りをよろしくお願いしたいと思います。

現在、深小学校では低学年が三時ごろ学校を出ています。また、高学年は四時ごろ学校を出ています。水曜日は少し早く、二時ごろ出ます。行事などの関係で時間がずれることがありますが基本的にはこの時刻です。

子どもたちの下校の頃、外に出て仕事をしてくださったり、子どもたちといっしょに歩いてくださったりなど大歓迎です。

なお登下校についてご意見や情報などありましたらお知らせください。▲▲

## 深小ＰＴＡだより

### ありがとうございました

深小ＰＴＡ会長　安藤志保

深町内のみなさまには、平素より、ＰＴＡ活動にご理解、ご協力いただき、誠にありがとうございます。

私個人としてはＰＴＡ会長としての一年間があっという間に過ぎ去り、終わりが近づきました。この間、本当にたくさんの方々に支えていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました！

子どもたちを安心して育んでいくために、地域のみなさまのお力が欠かせません。今後とも引き続き、ＰＴＡ活動への応援をよろしくお願い致します。▲▲

## グランド・ゴルフを楽しみませんか

下組　梶谷　和伸

皆さんの知っておられる様に国内では、老若男女を問わず「楽しく遊べる身軽なスポーツ」としてグランド・ゴルフ（以下Ｇゴルフと略します）の愛好者が増加しています。三原市内でも多くのグループが結成され、多数の人がプレーを楽しんでいます。また三原市（スポーツ体育課）主催の大会や三原Ｇゴルフ協会主催の大会など毎年数回開催されています。

Ｇゴルフはゲートボールとほぼ同じ大きさの球を一五ｍ～五〇ｍ先の旗を立てたホールポストに向かってスティックで打ち、何打数で入れるかを競うスポーツです。またＧゴルフは、ゲートボールの様にチームプレーでなく、プレーヤー一人一人の個人競技であり、調子の良くない日でも他のプレーヤーに迷惑をかけることはありません。またルールも極めて簡単で、高度な技術も必要としません。

プレーの準備もスタートマットとホールポストを置くだけで若者から高齢の方まですぐにプレーを楽しむことができる競技です。

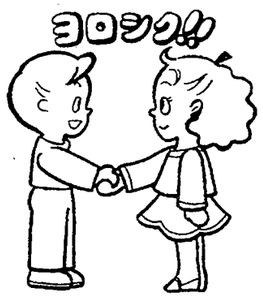
今年二月より毎月第四日曜日の午後一時より深小学校の校庭でプレーを楽しんでいます。用具も用意していますので、是非参加（体験でも可）して下さい。

※　Ｇゴルフ　小石一つに　嘆き笑い　▲▲

## 国際交流行事のお知らせ

如水館中学・高等学校では、国際理解を深めるため、一昨年より海外から留学生の受け入れを積極的に行い、様々な地域の方に短期ではありますが、ホームステイも引き受けていただきました。今年度も現在、タイ国・米国の留学生を受け入れる予定にしています。

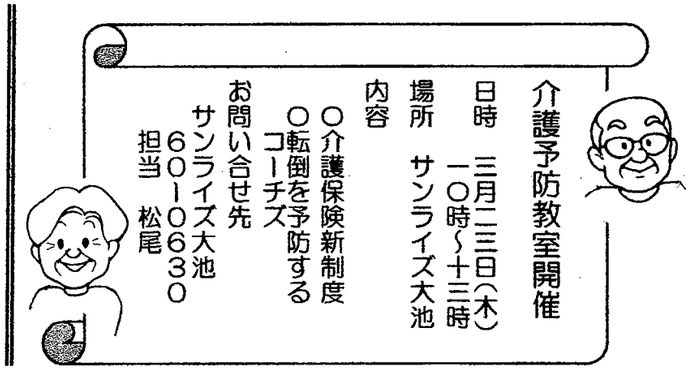
そこで、今年度は深町の皆様にも留学生との触れ合いを体験していただきたいと思っています。老若男女を問わず、お気軽に参加してみてください。詳しい日時や場所につきましては、次回お知らせいたします。




◇連絡先
如水館中学・高等学校
国際交流室　信清（のぶきよ）　光弘
TEL　64―2423（代表）▲▲

## 介護予防教室開催

日時　三月二三日（木）
一〇時～十三時
場所　サンライズ大池
内容
〇介護保険新制度
〇転倒を予防する
コーチズ
お問い合せ先
サンライズ大池
60―0630
担当　松尾



## 「ごみ処理券」ご提供のお願い

子ども会会長　小川和彦

町内のみなさまには、毎年、期限終了の「ごみ処理券」のご提供をいただき誠にありがとうございます。

今年も四月初旬より、子ども会役員並びにＰＴＡ講役員の方によりまして、各戸訪問させていただきます。その節は、ご協力の程よろしくお願いいたします。▲▲

## 謹んでお悔やみ申し上げます

藤田　芳樹様（九四歳）
（上組　辰巳講）二月十三日

## 深町各種団体三月行事予定

◆町内会連合会
▼役員会　下旬
◆小学校・幼稚園
▼誕生会・お楽しみ会㊏　三日
▼参観日・保健指導㊏　六日
▼諸お別れ会㊏　八日
▼集費集金㊏　九日
▼英語活動・貯金日
六年生を送る会
ＰＴＡ役員会
▼廃品回収
▼卒園式㊏　十二日
▼卒業証書授与式　十五日
▼終了式・英語活動　十日
◆女性会
▼親睦会　十五日
◆如水館中学・上高校
▼高校卒業式　二日
▼三期末試験　二～六日
▼中学校卒業式　十一～十四日

※転入のお知らせ
居倉（中組）井上純一仲城講）公希様

## 展望席

祭りの露店でタコ焼きを買って食べていたところ、タコ焼きにタコが入ってないものがあったので「タコ焼きにタコが入ってない」と文句を言ったところ、店のお兄さんが目をギョロッとむいて「なに！じゃー聞くが、タイ焼きにタイが入っているか？キリンビールにキリンが入っているか？綿菓子は綿で作ってあるか？」と言われ、妙に納得した。・・・と友人の話。

どこかの国の総理大臣も、国会でこのお兄さんに似たような答弁をされることがあり、思わずなるほどと納得したり、さすがと感心することがあります。後から？？？と思うのですが。世の中には「ああ言えば、こう言う。こう言えば、ああ言う」人も少なからずおられます。これらの会話がジョークやユーモアですと世の中は楽しく明るくなり、結構なことです。

しかし、話せば話すほど気が悪くなる会話はいやなものです。特に、悪徳商法の勧誘電話等は、まともに話をしていると、いやな感じのまま相手に引き込まれ、とんでもない契約や買物をしたりします。素早く電話をこちらから一方的に切って、話をしないのが最良の策かと思います。

コトバはコトダマといって、タマシイがこもっていると言われています。「あの一言で自分の人生が大きく変わった」という話をよく聞きます。たった一言で勇気が湧いたり、元気になったり、逆に落ち込んだり、時には殺意が生まれることさえあります。一つのコトバでも大切にしたいと思います。

# 六年間の記録（五）

下組　小林　徳蔵

## 第三章　平成三年

### 1　明日への架け橋

山中学園「第二グランド造成」の申し入れからあわただしい月日が流れて平成二年は暮れましたが進展はありませんでした。

新しい年を迎えて深全域を見渡せばこの申し入れに対する意識には無関心、無視、反対と白々しい雰囲気が強かったのです。

その中にあってグランド造成予定地の下流にある下組町内会では、何度も集まって話すうちにグランド造成を「明日への架け橋」にしようと論議が煮詰まっていったのです。

ここで、下組町内会定期総会の記述を見てみましょう。

### 2　町内会の行動目標

一月二〇日、下組町内会定期総会開催。（註　深では各町内会とも会計年度は一月～一二月制という変則の運営でした）

総会では、特に次の行動目標を確認し地域の明日をひらこうと申し合わせをしました。

①顔の見える町内会（度々顔をあわす）

②夢を語る町内会（盛んな意見交流。正確な情報）

③活気のある町内会（行動する町内会）

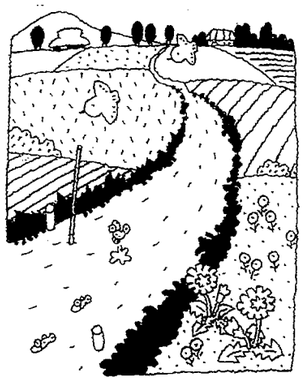
### 3　連合町内会組織へ

三月六日、深町連絡会役員会で、仮称「深町連合町内会を組織する件」を審議。総論賛成各論反対。継続審議となりました。

この議題は、深町町民にとっては難問なのだとわかりました。

第一には深町は長い間上組中組下組の三つの村落に別れ町内会も別々でした。

それと第二に峠で隔てられた隣接他町村との交流も極端に少なかった。深村自体の連合町内会組織の青写真を描いた経験が一度もなかったのです。この課題が意外に難問だったのは以上の二つ事情に由来するのかも知れません。



### 4　実地検分（第一回）

下組地区では、三月（日時不詳）、綱掛川、稚子（おさなご）渓流流域の実地検分を実施しました。

全員が長靴をはいて山野を検分しましたが、その時のメンバーを記しておきます。

山中学園より三原工業高校I校長、K教諭、T教諭。造成工事設計業者。地元町内会執行部。地権者。

実地検分で、じゅうぶんに地元の要望を伝えました。地元と行政当局へのパイプも確保でき一歩前進しました。

### 5　混迷に陥（おちい）る

実地検分が終って、次の取り組みにかかりましたが、ここに至って情報がパタリと途絶えました。山中学園からも、行政当局の要路からも何の情報も得ることができませんでした。（これは何か状況の変化があるな）と直感しましたが、静観の他ありませんでした。

町内会執行部が混迷に陥っている間にWという氏名の紳士から新たな申し入れがありました。

### 6　流通センターの申込み

五月二五日、W氏から「流通センター造成計画」が持ち込まれ、町内会の協力申し入れがありました。連絡会が窓口となり対応することとしました。

（次号へつづく）　▲▲

## 子ども会だより

### キックの思い出

子ども会会長　小川和彦

町内の皆様には、平素より子ども会活動に格別のご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、今月は、キックベースボールチームの六年生に書いていただきました「キックの思い出」を紹介いたします。

○　畑中　真璃乃

私が、深町エンジェルズに入って一番よく学べた事はみんなで協力する大切さだと思います。

私は、三年生からキックに入りましたが、初めは難しくて、なかなか協力できなかったけど、高学年になって、だんだんみんなと仲よく協力できるようになりました。自分がミスをしてしまっても、チームのみんなが「ドンマイ」とはげましてくれて、次に頑張ろうと思うことができました。みんなと頑張ったことを忘れずに、中学のクラブも頑張りたいと思います。いままでお世話をして下さり、ありがとうございました。

○　安藤　千晶

「キックの思い出」

私の思い出は、久井Bに勝ったことです。久井Bとは、同じぐらいの強さで、最初はやはり同点でした。自分たちの攻めが終わり守備につくと、ホームランをけられたらどうしよう、などいろいろ考えてしまったりしたけど、最後に2・3点差で勝ったときは、とてもうれしかったです。

他にも、合宿やお別れ会、ふだんの練習、お別れ試合も楽しかったです。

今まで支えて下さった監督、コーチ、保護者のみなさん本当にありがとうございました。

○　井手上　千春

「感謝の気持ち」

キックチームに入ったのは、五年生のときだった。普段外に出なかった私は、夢中になれる事がなくて、いつもひまにしていましたが、チームに入ってから、必ず運動する楽しさが分かり、必ず練習に参加しました。

それまでは他学年とあまり話をしなかった私が、チームに入ってからは楽しい話をしたり、勝った時の喜びをみんなで味わう事もできました。

監督やコーチがいてくれたから、私は毎日がとても楽しかったのだと思います。本当にありがとうございました。キックをやって本当によかったです。

## 短歌・俳句・詩

中組　仲峠講　竹内ひろみつ

寒の朝霜を踏みつつ歩むれば
ざくりざくりと崩る音して

雪マーク日本列島覆う日に
冬用タイヤに替えて一息

寒風に
吹かれて人は去り逝（ゆ）きて
思い出のみぞ残り哀（かな）しく

▲▲

○　力武　扶美子

私のキックの思い出は、ゆうわ会で三位になったことです。いいボールがたくさんけれて、私も満足したし、みんなすごく必死になってがんばってくれたから良い結果がだせました。これからもがんばってほしいです。

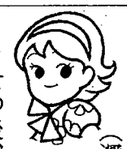
○　藤井　美桜

キックでの思い出は、ゆうわ会で三位になったことと、レフトになれたことです。六年で初めてレフトでいろんなボールをとったことです。

将来の夢は、老人ホームなどで働くことです。▲▲

## 最高の汗、そして、最高の涙（2）

如水館中学二年
（深町中組）林　加奈子



その後、私たちは二人ずつになり、それぞれのホストファミリーの高校生と共に、家に帰りました。

私は、ギルというとても日本語が上手な高校生と一緒に帰りました。日本語が全然話せないと思っていたので、びっくりです。なので、なに不自由なしで話せたのです。でも、私の友達ではまったく日本語も英語も伝わらなかった人もいました。

ホームステイする家につくと、ごく普通の家でした。友達で、ふんすいが庭についていたという人もいたのです。

でも、家の中に入るとすごく広いのです。お風呂が二つ、トイレが三つ、パソコンが四台・・・。もう、びっくりです。

ホストファミリーは、私たちをやさしくむかえてくれました。お母さん、私と同じ中二のアーム、お兄さん、おばあさん。

それから私は、二日間ホストファミリーの人と仲よく、いろんな所へ行きました。ショッピング、海・・・。ギルとは、とても仲よくなって、この間手紙がとどきました。

あっという間に、別れの時が近づいてきます。お別れのパーティーでは、二日間のいろんな出来事が思い浮かびました。

ギルと話したこと、アームと話したこと、お母さんの笑顔、もう見れなくなると思うと私たちの目から大粒の涙がこぼれました。それはみんな同じでした。

ホストファミリーと、強く抱き合ってる人、必死に涙をこらえて、笑顔で写真をとってる人、ハンカチを片手に別れをくやんでいる人。

二日間で築いた、この思い出は一生忘れないでしょう。私は、いままでで一番最高の涙を流したと思います。

私にとって、この修学旅行は深く残るものになったと思います。そして、私たちだれもがこう思ったにちがいありません。

楽しかった。（完）▲▲

## ※お断り

「戦時中の思い出」は、今月は都合により休みます。